

2 平成 29 年度の事業報告

1) 平成 29 年度事業の背景と概要

学園は、創設以来、地域の皆さまからの温かいご支援をいただき、学園の建学の精神である「学識と技術の錬磨、報恩の精神、不撓不屈の精神」に則り、地域の要望に応えるべく、それぞれの学校の特色を生かした教育活動を展開しています。その結果、現在では、トップエリート教育体系校(高等学校、中学校、小学校)とプロフェッショナル教育体系校(大学、専門学校)というふたつの教育体系を擁する総合学園として、様々な分野で次代を担うリーダーの育成を使命とした教育に取り組んでおります。

学園の教育の重点のひとつに「ホスピタリティに根差した教育活動」があります。人間として大切な思いやり、感謝の気持ち、素直な心をもった人材の育成を目指しています。「真に社会に認められる人材は、思いやりの心に根差した豊かな人間性を身につけることが不可欠である」との基本理念のもと、学園全体がホスピタリティを基盤とした人材育成を目指しています。

こうした教育活動を進める中、学園を取り巻く厳しい経営環境に対応すべく、職員が一体となり、学園の組織改革を進め様々な改善計画を検討・実施してきました。今日、学校の経営環境は厳しさを増しておりますので、より魅力ある教育環境を学生・生徒・児童に提供するために、地域に根ざした充実した活力のある学園づくりに取り組みました。

2) 部門別の諸活動報告

(1) 法人本部

① 諸規程の見直しの推進

学園の経営基盤を強固にして学園運営を円滑に推進するため規程の見直しを推進し、諸規程を体系的に整備しました。新たに制定した規程 3 規程、一部改定を行った規程 50 規程です。

② 経費節減策の推進

学園の経営環境の厳しさを改善する策として法人本部主導で各校に経費削減策の取組を提案し、経費節減を実施しました。

ア 電力の自由化を受け、電力供給会社に電気料金の見直しを交渉し削減しました。

イ 大学のモノクロ印刷機、モノクロコピー機の更新で安価な機種に入替え印刷コストを低減しました。

ウ 大学、高等学校、中学校、小学校、専門学校のマット等のレンタル料を一部業者変更、既存業者の価格引下げで削減しました。

エ 小学校、専門学校の給茶機を入替え、レンタル料を削減しました。

オ 中学高校の生徒用机・椅子交換を天板・背板交換に変更しコストを削減しました。

カ 中学高校の全てのホームルーム教室、職員室の電灯を LED 化し電気料金を削減しました。

キ 火災保険共済の見直しを依頼し、保険料を削減しました。

ク 学園各校の電柱掲出看板等を見直し広報費を削減しました。

以上の経費削減・収益増強を図り大きな成果を挙げました。

③ 学園職員研修の推進

学園全体の横断的な研修として、平成 29 年 3 月に新着任職員研修を実施し、平成 29 年 9 月には、学園職員全員を対象に学園理事による「環境変化に応じた皆さんに求められる意識・行動改革」の演題で研修を実施しました。

また、平成 30 年 2 月に、学園理事との懇談会を開催し、学園職員との意見交換を行いました。学園の問題点の共有を図り、職員の意識改革を促す成果がありました。研修回数が少なかったことは、翌年度への課題となりました。

④ 学園の地域貢献活動

ア 大学、中学高校の地域貢献活動

学園各校が地域の住民と協力して行っている地域貢献活動は、多岐にわたっています。大学は狭山市との間で連携に関する「基本協定書」を締結し、協力関係の強化を図っています。そのうちサービス経営学部では、「さやま市民大学公開講座」で大学教員が講座を担当し、また、「狭山市の魅力づくり事業」では大学の学生が参画して活発に地域との交流を進めています。看護学部は、地域住民の健康増進活動や地域の看護職の研究指導等を実施しました。

中学高等学校のクラブ活動に所属している生徒を中心に新狭山駅周辺の清掃ボランティア活動を実施しました。

イ 学園ハンドベルコンサート開催

学園各校が一同に会し、学園の教育活動の一端を地元の皆さまに知っていただく学園全体の行事にハンドベルクリスマスコンサートがあります。これは、学園各校の連携と結束を強めることを目的として、年末に開催されるイベントです。平成 29 年度は、12 月 17 日(日)に第 15 回目のコンサートを狭山市市民会館で開催しました。

ご来場いただいた地域の皆さまには、心をなごませる優しい音色にひたる機会として、

また、児童、生徒、学生、保護者にとっては、日頃の練習の成果を発揮し、チームワークを実感する場として意義深い行事となりました。

(2) 西武文理大学

① サービス経営学部

サービス経営学部ではグローバル化計画に沿って取組を行ないました。成果があった事業は以下のとおりです。

ア 大学ブランド化事業①サヤマ de シネマ

狭山市市民会館で東京国際映画祭参加作品の上映会、サヤマ de シネマ (Vol.1) を開催しました。東京国際映画祭事務局の協力を得て狭山市との共催で実施した上映会には多くの市民の皆さまが来場され、平成 29 年度の狭山市 10 大ニュース第 1 位に選ばれました。なお、上映会の実行委員長を務めた本学の学生は、狭山市長との新春座談会に招待され、本学の学びの一端を地元の皆さまに紹介できる良い機会となりました。学生の学修や募集広報で大きな成果を挙げました。

イ 海外提携大学の拡大

昨年度設立された BGHC (文理グローバル・ホスピタリティ・センター) は、国際コミュニケーション能力とホスピタリティマインドをもったサービス人材の育成を目指しています。その成果として学生の留学意欲が高まったことを受け、ホスピタリティ教育のグローバル化を目的として、海外大学との提携拡大に取り組みました。既提携先のハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジの他、今年度はイタリアのインスブリア大学 (University of Insubria) との学術交流の合意に関する覚書(MOU) を締結し職員の相互訪問が実現しました。また、本学の学びについて、海外経済紙の取材を受け、大きな広報効果がありました。

ウ 海外フィールドワークの充実

国際的に活躍できるサービス人材育成の一環として、本学が重点的に取り組んでいる海外での体験学習には、カナダ (現地旅行会社での仕事体験)、韓国 (アジアナ航空でのエアライン実習)、ハワイ (本物のブライダル) 等での実習があります。特にハワイでは、「ブライダル絆プロジェクト」として、熊本地震被災者カップルの協力を得て本学学生が本物の結婚式をプロデュースしました。

エ ブライダル授業支援

ブライダル運営企画会社との委託契約を締結しました。5 月のブライダルに続き学生のインターンシップでも協力を得られる成果がありました。

オ 学生の活力を支援するための奨学制度を設立

サービス経営学部では、入学後に指定強化部である女子ラクロス部と男子バスケットボール部に所属する学生を対象とした奨学制度を設立しました。平成 29 年 9 月に実施した A0 入試奨学生(スポーツ型)で女子ラクロス部 1 名、男子バスケットボール部 8 名を選考し奨学金を授与しました。

カ 216 教室の A V システムの入換え

2 号館 216 教室の A V システムの入換えが完了し、授業での活用頻度が上がりました。

キ 古い学生用椅子の交換

1 号館の教室の椅子計 263 脚を交換しました。

② 看護学部

看護学部は、安定的な学生確保と本学ならではの看護職者育成のため、以下の取組を行ないました。

ア 学生主体の学修活動推進

看護職としての成長に不可欠の「主体的な学び」と「自己学習能力の向上」を身につけさせるため、本学では一方的な知識伝達型の指導ではなく、学生と教員の双方向的なやりとりを重視する教育に取り組んでいます。授業以外でも幅広く学生の自己学修を支援する体制を整備しているほか、学年ごとの学生委員会を通じて学生が自ら学習課題を見出し、問題解決に向けて主体的に取り組むプログラムが実習先での高い評価につながっています。なお、平成 29 年度の看護師国家試験合格率は 97.4%を達成しました。

イ 看護実践能力の強化

前年度からの新しい試みとして、学生が自己アセスメント能力と自身の看護技術力を確認し、改めて自らの学習課題の解決に取り組むための講座「看護総合演習」を 4 年生の後期に開講しています。この演習は、実際の臨床現場を想定した状況で学生が“4 年間の学習成果と身に付けた知識・技術をどのように活かすことができるか”を評価するシミュレーションを行うもので、就職後の看護実践能力を更に高める効果が期待されます。

ウ キャリア開発支援活動

卒業生が生涯を通じて看護師として成長していくことができるよう学生のキャリア支援と就業支援に取り組んできました。具体的には、実務者の体験を学ぶことで看護職をめざす学生自身の自覚と意識形成をサポートし学生が看護者としての自身

の未来像をイメージしながら主体的な就職活動に取り組むことが出来るよう、就職試験対策も含めて幅広く支援していくもので、学生委員が中心となって企画運営しました。

エ 宣誓式

臨地実習に臨む学生が看護職としての自覚を高めるセレモニーとして“宣誓式”を実施しています。本格的な臨地実習に臨む3年生が、看護を志す者として自己をしっかりと見つめ、振り返りと将来に向けて自己の意志を固める等の動機づけを目的とするものです。臨地実習に向けて自身の心構えを再確認する機会となりました。

オ カリキュラムの検証

看護学部は計画的にカリキュラムを検証しています。そのもとで看護診断能力の涵養をねらいとしたカリキュラムの見直しを実施しました。

カ 備品の刷新

教育用備品のうち、開設時からの耐用年数を超えた看護・医療備品のうち実習用備品であるミュレーター、看護用品等の刷新を行いました。

キ 印刷機の更新

8号館カラー印刷機とモノクロ印刷機を更新し、機能性と作業性が向上しました。

③ 大学のSD・FD研修体制の確立

設置基準改定により平成29年度からのSD研修義務化を受け、計画を実現するための予算を確保し、研修には延べ314名が参加しました。

④ 高大連携

高大連携への取組として、併設校である西武学園文理高等学校と「高大連携協議会設置に関する覚書」を締結し、本学教員による高校での授業や本学で実施しているアクティブ・ラーニングの授業に文理高校生が特別参加する等の相互交流を進展させています。また、高等学校の学園祭では両学部の教員がそれぞれ特別講座を実施し協力関係を強化しました。

⑤ 課題を次年度に残した事業は次のとおりです。

ア 8号館多目的ホール・事務室間のパーティション設置事業は、未着手でした。

イ 8号館周囲街灯交換工事事業は、未着手でした。

ウ 新学部構想は、準備不足のため先送りとしました。

(3) 西武学園文理中学・高等学校

事業計画のうち、成果のあった取組は以下のとおりです。

① グローバルコミュニケーションコースの新設

平成 29 年度入学生が中学 2 年から選択できるコースであり、文理中学・高等学校の重点事業として取り組みました。平成 29 年度は 30 年度の開講に向けて、海外語学研修、オンライン英会話などの開設準備を行いました。

② グローバル人材育成プログラムの実施

ア セブ島短期留学

セブ島の語学学校に 7 月に 2 週間滞在し、毎日 5 時間の英語のマンツーマンレッスンと 2~3 時間のグループレッスンを行った結果、生徒の英会話力の大幅な向上が図れました。

イ オンライン英会話

生徒全員がタブレットを持ち、ネイティブスピーカーとマンツーマンで英語力を鍛える授業です。英語 4 技能を伸ばす教育として定着しました。

ウ ハーバード英語プログラム

校内で現役のハーバード大学生によるハーバード英語プログラムを実施しました。このプログラムは「考える力」（クリティカルシンキングスキル）と英語によるコミュニケーションスキルを伸ばすという目的を達成しました。

エ 語学研修

高等学校普通科のマレーシア・シンガポール研修は、生徒の取り組み方も良く新規の企画として成果を挙げました。

③ 教科指導

ア 大学入試の新テストに向けて ICT 教育の充実を図りました。LL 教室を語学授業の教室に改良し特に『話す、聞く』という英会話の力を養成する施設として整備しました。

イ 平成 32 年度から導入される大学新入試制度への対応として、本校も次の新たな授業形態を取り入れました。

(ア) 教科横断型授業

複数の教科によるコラボレーションの授業である教科横断型授業を実施しました。平成 29 年度は英語と生物とのコラボレーションによる「うま味成分」について、英語を使って授業を展開しました。

(イ) 理数科先端科学講座、ロボット製作講座

理数系人材育成プログラムとして、プログラミングの基本から学習し、自ら創造するロボットの開発と製作を行いました。この講座はイマージョン教育(英語)を取り入れ、外国人英語教員と日本人教員が TT で行いました。

ウ 中学校の教育活動の改善

(ア) 適性検査型入試の導入

新大学入試制度への移行に伴い、他校でも採用が増えてきた適性検査型入試を導入しました。多様な能力を持った生徒の受け入れを目指すもので従来の学力検査にとらわれない新たな入試です。他校との競合が激しい入試でもあり、今後とも研究を重ねる必要のある入試形態です。

(イ) 中学校での給食の開始

共稼ぎ世帯で子どもの弁当作りが負担になっており、給食を提供できる中学校は保護者に歓迎されます。本校では外部調理による教室給食を導入しました。保護者・生徒にたいへん好評です。

エ 施設設備の改善

(ア) 生徒用机・イスの交換

破損や汚損の進んだ教室机・イスの交換を実施し、安全で清潔な学習環境が準備できました。

(イ) 屋上等防水工事

中学校棟校舎の屋上、ベランダ等の防水改修工事により、雨漏りの懸案事項を改善しました。

(ウ) 外壁点検・補修工事

校舎の外壁タイルが経年劣化により欠落することを防止するため、中学及び高等学校校舎の外壁タイルを全面的に点検し補修を行い、タイル落下による生徒の危険防止対策を行いました。

オ 課題を残した事業

平成 29 年度に計画立案された中学校棟のトイレ改修事業は、平成 30 年度に繰り越すことになりました。

(4) 西武学園文理小学校

平成 29 年度の小学校の事業は、「心を育てる」「知性を育てる」「国際性を育てる」という 3 本の教育の柱のもとで、日本人としてのアイデンティティーを持ち世界で活躍する「トップエリート」の育成を目指して実施しました。

① 英語教育課程の拡充、海外語学研修の拡充

開校時に比べ、小学生を対象とした英語教育は、その質や内容が大きく様変わりしていますので英語教育課程の見直しを開始しました。下級学年は、英語に触れる授業時間を10時間以上設けています。また、平成29年度は校舎内に英語の表示を増やし、身近なものから英語を学ばせることを心掛けました。

公立小学校での英語の必修化に対応するため文理の英語教育の見直しを図り、「英語教育課程の拡充」「低学年対象英語研修の導入」「海外語学研修の拡充」など英語教育の見直しを進めました。

海外語学研修の拡充として、5年生の英国短期留学、6年生の米国研修ではプログラムの一部を変更し、国際感覚豊かな人間性を育くみました。プログラムの変更は保護者には高評価でした。

② メディアリテラシー教育などのSTEM教育の充実

平成29年度事業として、「STEM教育」も重点に取り組みました。文理の特徴をアピールするものとして「メディアリテラシー教育」(情報教育)や「ロボット教室」などのSTEM教育の充実が、「英語教育」に加えて必要となるので、その充実を図る取組を行いました。特に「ロボット教室」は、児童の関心を引き好評でした。平成31年度から高校理数科にSSHを導入する計画は、小学校の理数教育にとってもプラス材料です。高校理数科が行っている「ロボット教室」を平成29年度は小学校にも導入しました。小学校で理数教育に力を入れている学園の姿勢が示せたことは、児童の興味・関心だけでなく、広報的にも効果があった取組でした。

③ アフタースクールの拡充

小学校の児童募集の重点に「アフタースクール」があります。保護者の仕事の関係などから、アフタースクールの有無や充実度が小学校選びのひとつの基準となっています。平成29年度は「中学特選準備講座」「英会話」などを新設し、習い事や学習に関する内容の充実改善を図りました。

④ 施設設備の改善

成果のあった平成29年度施設設備の改善事業に、児童用の机・イスの交換があります。破損や汚損の進んだ教室机・イスの交換で、安全で清潔な教室になりました。

⑤ 小学校ホームページ、パンフレットの刷新

平成31年度募集にあわせ、小学校のホームページ、パンフレットの刷新を行いました。ホームページは、文理小のイメージを一新し、訴求効果の高いものになり、合わせてスマホ対応にしたことで、保護者の皆さまや幼児教室の先生からも高評価を頂き

ました。パンフレットについても、好感のもてるイメージでできているとの評価でした。

(5) 西武学園医学技術専門学校・西武文理大学附属調理師専門学校

① 医学技術専門学校所沢校の耐震工事

専門学校は、平成 29 年度事業の重点として、医学技術専門学校所沢校の耐震工事を実施し、耐震対策を終えました。

また、校舎外壁に学校名と学科看板をリニューアルして設置したことで、オープンキャンパス参加者からは、見やすくわかりやすいとの評価をいただいています。

② W e b 化の推進

厳しい学生募集の現状を改善する方策として、W e b 化を積極的に推進しました。特に専門学校の学生募集の募集範囲は全国規模であるため、ホームページや SNS の活用は、今後も進めていきます。

以上